



いままで使えなかった場所でも効果を引き出す フルテックの好評NCF Boosterシリーズに クレイドルを低くできる高CPバージョン新登場

コネクター・ケーブルホルダーとして好評のフルテックNCF Boosterシリーズに、新モデルが加わった。従来よりも低い位置の端子をサポートできる、「NCF Booster-Signal-L」だ。シリーズ共通仕様のため、オプションと自由に組み合わせた幅広いオーディオアップと使いこなしも可能だ。薄型や小型の機材が多いネットオーディオ環境下で、効果的なオーディオアップが図れる待望のモデルというべきその効果と使いこなしをレポートする。

Text by 山之内 正 *Tadashi Yamanouchi*
製品Photo by 田代法生

FURUTECH
NCF Booster-Signal-L
コネクター／ケーブルホルダー
(¥14,800・税別／1個) ※写真右側は、高さを最も低い状態に設定したところ

より低い場所にも使えて
広範な端子周りを音質改善

フルテックのNCF Boosterシリーズに、NCF Booster-Signal-Lが追加された。ベースプレートの高さをギリギリまで抑えてクレイドルフラットの位置を下げ、低い位置の端子や背の低いコンポーネントでも使いやすいように工夫したことが今回のポイント。特にネットオーディオのジャンルは薄型のコンポーネントが多いので、本音が威力を発揮しそうだ。

電源ケーブルのコネクター支持に最適なオリジナルのNCF Booster (3万2800円/税別)を皮切りに、各種信号ケーブルに応用したNCF Booster-Signal (1万9800円/税別)を追加。今回のNCF Booster-Signal-Lはそれに続く第3弾ということになるが、基本的な仕組みに変わりはなく、静電気対策と振動対策を同時に発揮するというコンセプトも共通だ。静電気を抑える特殊素材のNCFを調合させた、ナイロン樹脂とオーディオグレードのABS樹脂の組み合わせに加え、クレイドル内部の入念な振動対策がコネクターやケーブルの振動を低減する。

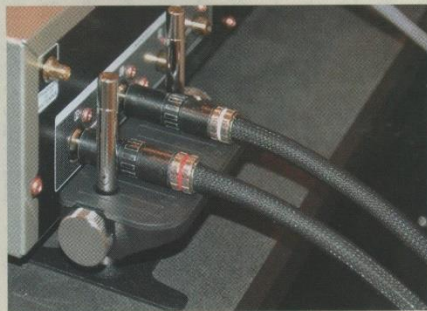
通常のNCF Booster-Signalは基本の高さが44×82・5mmだが、新しいNCF Booster-Signal-Lは23・8×81・4mmと低いポジションでは約2cm下がり、シリーズ共通のエクステンションシャフトバーが2本付属するので、高いポジションはSignalとほぼ同じ高さまでカバーする。バーをオプションで追加すればさらに高い位置で使うこともできるが、ベースプレートが軽いため重心は高めになる。端子の位置はコンポーネントによって千差万別だが、この2種類を使い分ければ用途は一気に広がる。

ネットワークプレーヤーやUSB DACの場合、アナログのライン出力はもちろんのこと、LANケーブルやUSBケーブルなど、デジタル伝送系でも静電気と振動が音質に与える影響は小さくない。さらにユニバーサルディスクプレーヤーやリンのDSMでは、HDMIケーブルの振動対策も視野に入れておくべきだ。LAN、USB、HDMIいずれも構造的な問題で嵌合が甘くなりやすく、それが原因となるトラブルも珍しくない。オーディオ用途をメインに考えていないので仕方ない面もあるが、NCF Boosterシリーズを導入すれば音質改善と信頼

Details NCF Booster-Signal-L



fidataのミュージックサーバーHFA S1-H40の、USBとLAN端子にNCF Booster-Signal-Lを挿入。端子がぐらつきやすく、低い部位には特に効果を発揮する

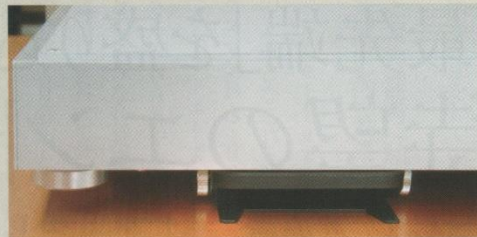


マランツのネットワークCDプレーヤーND8006の、アナログ出力端子部へNCF Booster-Signal-Lを挿入。ここは従来のNCF Booster-Signalは使えなかった場所だ



NCF Booster-Signal-L仕様

●クレイドル：フラットタイプ ●高さ設定：基本(一番低い位置での高さ)23.8mm、延長81.4mm(オプションでさらに追加可能) ●ベースユニット外部サイズ：89.8×66.0mm ●外部サイズ：46W×112L×23.8Hmm ●質量：基本約130.5g、延長約177.5g ●付属品：エクステンションシャフトバー×2本、固定リング×2本



機器のシャーシの下にNCF Booster-Signal-Lを3個入れて3点支持。ダイレクトインシュレーターとしての効果も確認できた(写真はfidataのミュージックサーバー)

性向上を同時に実現できる可能性が高い。

アナログRCA端子に使うと立体感や空間の見通しが向上

ディスク再生とデータ再生を一台で担うマランツのND8006を用意し、NCF Booster-Signal-Lの有無による音の変化を聴き比べてみた。このプレーヤーは特にライン出力端子の位置が低めなので、プラグのサイズによってはNCF Booster-Signal-Lが使えないこともある。NCF Booster-Signal-L未使用時の再生音は周波数バランスに誇張がなく、聴き疲れしにくい音調に好感を持つ。10万円前後の実売価格に見合う素直な再生音で、特にライブ収録のジャズや教会で収録したトリオ・ソナタなど、編成が小さめのアコースティックな録音をクリアに再現する。

ラインケーブルのプラグをNCF Booster-Signal-Lに乗せた状態で同じ曲を再生すると、ピアノやヴィブラフォンなど、ほぼ全ての楽器の音像に3次元の立体感が出てくる。室内楽の録音では余韻が広がる空間の見通しが良くなり、空気の動きが見えるようなリアリティが感じられた。ヴォーカルのイメージから

じみが消え、ギターとドラムのアタックが揃うなど、わずかに残っていた曖昧さがほとんど気にならなくなったことも特筆しておきたい。

LANやUSB端子周りでは鮮明で遠近感が一気に広がる

ND8006のLANやUSB端子も、NCF Booster-Signal-Lの守備範囲に収まる。オーディオケーブルの製品を選ぶと、どちらのケーブルも太く重くなり、プラグとコネクタの間に隙間が生じやすい。それだけ振動の影響を受けやすくなり、シールドを介したノイズの伝播も懸念される。NCF Booster-Signal-Lを挿入すると、一音一音の立ち上がり鮮明になると同時に発音した直後の音の勢いが強まるように聴こえる。ベースの重量感やヴォーカルの柔らかい質感など、音色はほぼ変わらないまま演奏の生々しさや高揚感をありのままに引き出す

感触があり、再生音の格が上がったような印象を受ける。音の変化が大きく、コンポーネントのグレードが1ランク上がったように感じるのにはNCF Booster-Signal-Lに共通する効果なのだが、スリムなNCF Booster-Signal-Lにもその特徴を聴き取ることができる。LAN

とUSB各ケーブルへの対策はfidataのサーバーでも同様な効果が現れ、特に奥行き方向の遠近感が一気に広がることに感心させられた。筐体が薄く、NCF Booster-Signal-Lが使えない機器の代表格だが、NCF Booster-Signal-Lなら問題なく活用できる。

インシュレーターとして試すと重心を下げ低音のブレが消える

メーカーが想定する用途とは少し方向が違うのだが、NCF Booster-Signal-Lのスリムなサイズを活かし、インシュレーターとして使ってみるのも面白いと思う。今回はND8006の底面に3個のNCF Booster-Signal-Lを挿入してみた。重量バランスを考慮して位置を工夫しながらフロント側1個、リア側2個で支える。使用前に比べて音の重心が下がり、ピアノの低音部やベースの輪郭からブレが消える。NCF Booster-Signal-Lは既存モデルよりも低価格に設定されているので、ケーブル以外にも用途が広がる可能性がある。使用する数を増やしても副作用が見れないので、予算が許せば複数の箇所に使ってみることをお勧めしたい。

とUSB各ケーブルへの対策はfidataのサーバーでも同様な効果が現れ、特に奥行き方向の遠近感が一気に広がることに感心させられた。筐体が薄く、NCF Booster-Signal-Lが使えない機器の代表格だが、NCF Booster-Signal-Lなら問題なく活用できる。